



みろく

— MIROKU —

Kambara
Family

No. 10

2018年1月1日発行



2017年10月に行われた、みろく祭り大般若会

大般若経 とは

はじめに大般若経の説明をいたしましょう。

7世紀のことです。唐（現在の中国）の高僧であった三蔵法師こと玄奘三蔵は、タクラマカン砂漠やパミール高原を越える長く苦しい旅（往復16年）の末に、天竺（現在のインド）からサンスクリット語で書かれた膨大な仏教経典を持ち帰りました。玄奘はただ

みろく祭りの際に執り行われる大般若会。それがいかに「有り難い」行事なのか、大般若経の意味も含めて、長年、神勝寺に携わられた中川詳心さんにご説明いただきました。

Hiroshima
Fukuyama
Shinshoji

持ち帰っただけではありません。その後6年もの歳月をかけてこれを漢字に翻訳し、全部で6百巻にもなる膨大な経典として完成させました。

玄奘が漢字に直した経典は、やがて遣隋使や遣唐使として派遣された学僧たちによって日本にもたらされました（8世紀頃）。現在でも、日本国内の多くの寺院には、それを書き写した経典が大切に保存されています。この全6百巻の書物（仏教経典）こ

社会の安全と平和、
そして人々の
幸せを祈願して
神勝寺 大般若会

圓通山願成寺 住職 中川 詳心さん



それが、「大般若波羅蜜多經（大般若經）」です。

ちなみに、孫悟空が大活躍する『西遊記』は、唐から天竺に向かった玄奘の苦難の旅をヒントに、後の時代に創作された冒険物語です。



玄奘が持ち帰った経典は全部で6百巻。これがどれくらいもの量かというと、全文を省略せずに読み通した（真読）という記録は、日本では数例あるのみだそうです。ましてや、意味をしつかり理解しながら読むとすれば、一生かかっても読み切れないほど、とにかく膨大で奥の深いものなのです。

寺院の行事として、この経典を読むことが各地で行われていて、これを大般若会といいます。しかし真読するには長い長い時間がかかりますから、ほとんどの場合は「転読」という方法が用いられています。転読とは、経巻を右や左に傾けて、ページをパラパラと二方へ落とすようにめくる読経です。多人数の僧侶が、巻ごとの経題を大声で読み上げながら、経典を空に向かって投げ上げるように転読する様子は、カードマジックのようでもあり、真っ白な扇が一斉に開かれるようにも見えて、大般若会を代表する光景となっています。

神勝寺 大般若会の 一つの意味

神勝寺では毎年10月の「みろく祭り」の際に大般若会を行っています。臨済宗の建仁寺派、建長寺派、永源寺派、それぞれの管長や導師、修行僧、それに中国地方の法類のお寺（臨済宗）から集まった多くの僧（昨年は35人以上）が参加して、神勝寺本堂で大般若波羅蜜多經を転読しました。荘厳な宗教行事でありながら、すでに沼隈の秋を象徴するような大イベントとなっています。

建仁寺派、建長寺派、永源寺派のそれぞれの管長や導師の方々が神勝寺に集うのは、臨済宗にとつて、というより日本の仏教界にとつて、大変珍しいことです。なぜなら、同じ仏教、同じ臨済宗であっても各派を超えて交流することは、ほとんどないからです。ところが、この滅多にない交流が、毎年秋に沼隈の神勝寺で実現しているのです。その意味で、神勝寺の大般若会は臨済宗の3つの宗派にとつては、文字通り「有り難い」ことなのです。あくまでも、これは私の個人的な意見です。

継続の中で熟成する 大般若会の意味

大般若会とは、一つの組織や個人の繁栄と安寧を祈願する法要

ではありません。これは、玄奘が志したであろう、広く社会全般の安全と平和、それを構成する人々の健康などを祈願するために行われる法要です。

したがって、この大法要を神勝寺で行うことを決断した方の宗教心、社会を思う広い心には、臨済宗の「僧侶として尊敬の念を禁じ得ません。それと同じように、その理念、宗教心を受け継いで、この数十年の間、毎年欠かさずにこの大法要を継続してくださっている人々への尊敬の気持ちも感じています。

「継続」とは、守り伝えるということです。それは「点」つまり一瞬で成し遂げるものではなく、「線」という時間経過の中で世代ごとに受け継がれていく、とても息の長い行為です。そして、この「線」を先代から現代、さらには次代へとつないでいく行為によつて、「家を守る」という概念が生まれるのです。

毎年、秋に催される神勝寺の大般若会。これに参加することはもちろん、遠く離れた場所においても、この法要が営まれていることを心の隅に留めておくことは、とても大切なことです。その中で、過去から引き継がれ、やがて次代に手渡していくべき「何か」の存在を感じること、つまり、「線」の中に生きていると自覚することが、神勝寺で催す大般若会をさらに有意義なものにするのだと信じています。



（筆者ご紹介）
願成寺の中川 祥心 住職は、9年間にわたって神勝寺の運営にご協力いただきました。接客、事務処理、座禅会の指導などで大変お世話になりました。

長大な経巻を扇のように広げて読経する「転読」

社会の安全と平和、そして人々の幸せを祈願して
神勝寺 大般若会

Q 出会ったきっかけと 第一印象は？

文雄…留学先のイギリスの学校で同じクラスでした。明るい笑顔が素敵だなと思いました。

愛子…背が高く、さわやかで優しい印象でした。

Q 趣味や 今凝っていることは？

文雄…旅行とゴルフが好きです。子どもたちが落ち着いたら、また再開したいです。

愛子…海外旅行が好きです。長女一人の時は、家族3人でよくタイに行きまし



2006年3月25日、結婚式

夫婦で話そう

10

このコーナーでは、ファミリーの中の

家族のストーリーをご紹介します。

10回目は、

神原文雄さん・愛子さんご夫婦です。

Fukuyama

連絡先

住所：〒721-0974

広島県福山市東深津町7-15-28

た。最近では、家族でTDLに行くのが楽しいです。
私は語学が好きで、フランス語を勉強していました。そろそろ再開しようかと検討中です。また結婚前からヨガをしていて、今も平日に早起きできた時はやっています。

Q 家族の決めごとは？

文雄・愛子…何か困っていることや言いたいことは、隠さずに言うこと。一人で悩んでいないで、言葉で伝えること。

Q 最近のお出かけ先は？

文雄・愛子…11月、みろくの里です。

Q お子さんへの想いは？

文雄…何よりも健康で、みんな仲良く。本当に自分の好きなことを、素直な心で全力で。

愛子…子どもたちには、興味を持ったものは何でも挑戦してみしてほしいと思います。好きなものを大事にしてほしいです。

長女はピアノをがんばっていて、オーディションやコンクールによく挑戦しています。練習は苦しいけれど、それを乗り越えた

時、自分で満足できる演奏ができたなら、本当に幸せだと思います。これからの人生も楽しいことばかりではないかもしれないけれど、地に足をつけて挑戦すれば道は開けてくると思います。

下の娘3人もお姉さんをよく見て、まねをしています。よく喧嘩しますが、4人ともいつまでも仲良く、悩みなどを相談し合ったり良い関係でいてほしいで



タイへ新婚旅行

Q お互いに言いたいことは？

文雄…気力体力すべてを使って、家事子育てをがんばっています。ありがとう。おかげさまで、私たち夫婦も含めて家族みんなが成長しています。二人での旅行、楽しみです。喧嘩をすることもあっても、いつまでも仲良くしましょう。

愛子…私がさりげなくつづやくことによく気がついて、子どもたちのことを手伝ってくれてありがとう。おかげで子どもたちは、ふみ君が大好きです。みんなが大きくなったら、また二人で海外旅行に行けたら嬉しいです。おじいちゃん、おばあちゃんになっても、いつまでも仲良くやっていきたいです。



2017年11月、光信寺にて

造船100年に思う

100th
Anniversary
Tsuneishi
Shipbuilding

1917年、それまで内航海運を家業としていた神原家は、常石の塩田を埋め立てた場所で自社所有船舶の修理・修繕と新造を目的とした造船場^{そうせんば}を開設します。その名も塩浜造船、ここから神原家の新たな家業としての「造船業」の歴史が始まります。

あれから数えてちょうど100年。そんな神原家造船業の歴史を中盤期で実際に目にした5人の方にお話を聞きしました。遠い昔の「木造船」のお話がありました。砂浜にレールを敷いて初めての「鉄鋼船」を建造したお話、そして吹き荒れた造船不況の嵐…、それぞれの方の臨場感あるお話をご紹介します。

未来への100年構想 人と地域を大切にする 会社であり続けるために

神原 真人

「造船100年の節目」について、何か感慨があるかと言えば当然あります。簡単に言えば、それは「全力疾走の100年」あるいは「死にもの狂いの100年」ということになるのだと思います。そしてこれは、多くの仲間を支えられた100年だということも感慨の一つと言えるのだと思います。多くの仲間とは誰のことでしょう。その中には現在の会社関係者も当然含まれています。しかし特に強調したいのは、鉄鋼船建造から20万トンドックまでの激動期、あるいは海外進出の先駆けとなって、おぼろげな未来

社会的信用と 神勝寺の役割

神原 治

100年と言うと1世紀です。この間には常石造船に限らず、造船関連企業が時代の波に揺られてきたのだと思います。それは技術の進化であり、海運環境（造船需要）の変化、新興国の目覚ましい躍進など、さまざまな点に見られます。常石造船は、そうした環境の変化に対応しながら、長い歴史を積み重ねてきたわけですが、環境の変化と言えは、たった二つだけ変わらないのがあります。それは

を信じて造船事業を支えてくれた多くのOBの方々のことです。同時に、地域の産業として私たちの造船事業を陰日なたく支援してくださった地元常石の方々も忘れてはなりません。そういう人たちのリスペクトをベースとして、私は過去の100年を語るよりも、未来に向かう100年の構想についての「3つの思い」を箇条書きで語りたいと思います。

①常石タウン構想 グループ関係のビル・建物を統合して、病院を含めた地域のコミュニティセンターの役割も担当できる常石タウンを開設。

②100年教育構想 保育・幼児教育から始まり、児童・生徒、地域出身学生の教育支援体制をシステム化する100年教育支援体制を確立。

③OBのリタイアライフの充実

全世界の造船業界が持つ、構造的で宿命的な問題です。そうです、造船景気の大きな波の問題です。この波は作業効率の追求、経営努力はもちろんですが、会社の「足腰の強さ」によって克服していくものなのです。この100年の間には、いえ、私が知る60年間だけでも、何度かの造船不況の波が押し寄せて来ましたが、その波をこごとく克服したからこそ、今日、造船100年という大きな節目を迎えることができたわけです。

なぜそれが可能であったかと言うと、私の個人的な考えですが、「神勝寺の役割」がとても大きいのだと

冒頭でも述べましたが、造船を含めた常石グループの今日を築いたのは多くのOBの方々です。そんな方々が気軽に楽しく過ごせる場所と環境、設備を整えて、より豊かなリタイアライフ支援体制を充実。

この3つの構想を実現するために、これからの100年に向けて歩み出してもらいたいです。これを実現するのは、私たちよりも若い世代であることは言うまでもありません。どうか、これらの構想を宿題の一つとして心のどこかに留めておいてください。人と地域を大切にする会社は、業種に関係なく長い歴史を刻む資格のある会社なのですから。



20万トンドック
(昭和43年)



神原家だけでなく、地域社会の方々にも親しまれる神勝寺

歴史は地域社会とともにあった

神原 総一郎

あまりに遠い昔のこと、それに私自身もまだ幼かったこともあって、記憶は定かではないのですが、現在のファミリーマートの裏手から常石病院の裏手あたりに、昭和20～30年代の造船場のメ

イン設備があったような気がします。設備と言っても、木造船の船台が何本かあり、これも木造船の修理用のドックが一本、それに十字に出た木の棒を何人かで巻き上げる完全人力の陸揚げ用ウインチ、比較的大きな製材所が二棟という、当時の瀬戸内海の造船所としては平均的な設備と規模だったと思います。明確な記憶として残っているのは、

造船場の製材所から出る木っ端を積み木代わりにして遊んだことです。それから、造船場界隈の常石の人たちは、煮炊きや暖房用の燃料確保のために山へ柴刈りに入らなくても済んだことでしょうか。と言うのも、うちの製材所から出る大量の木っ端を、おばあさん（ヒサ）が近所の人たちに分け与えるからです。おばあさんは気

風も面倒見もそれはそれは豪傑でしたから、多くの人に慕われていました。造船100年というテーマから話がそれましたが、こうした造船場界隈の日常の風景もまた、一つの歴史として語り継いでいかなければならないのではないのでしょうか。常石造船の100年という歴史は、地域とともに刻まれたものなのですから。



昭和30年頃の常石の風景

「ものづくり」の誇り高い職人魂

神原 浩士

常石造船で建造する木造船の特徴は、使用するほとんどの板材を自ら切り出すことにありました。直径一尺（30cm）、時に二尺（60cm）以上、長さは10メートルにも及ぶ大きな丸太を、自ら切り出して板材にするのです。たぶんこの方が、コストや強度、安定性の面で優れていることを、祖

父（勝太郎）や叔父（秀夫）が経験上知っていたからだと思います。その板材を切り出すのは、「大引きさん」とか「木挽きさん」と呼ばれる専門の職人さんたちが担当していました。幅2尺余りの大ノコギリで丸太を縦に引いて板材にしていくのです。葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景／遠江山中」に、太い角材を縦に引いている職人の絵がありますが、まさにあの絵と同じで、おそらく2日ばかり、3日ばかりで根気

良く大きな丸太を板材に加工していたのだと思います。そんな彼らは、船大工ではありません。必要に応じて瀬戸内の各造船場に呼ばれてその技術を提供する、誇り高いスペシャリストといったところかもしれません。もちろん、船大工もまた高度なスペシャリストであることに変わりはありません。それもある人の生命を預かるものを造る職人ですから、誇り高いという面では「大引きさん」たちに負けず劣らずのも

のがあったのだと思います。そして、そんな誇り高い職人さんたちを使って、理想の船を造った祖父や叔父の誇り高さは、それ以上のものがあったのだと思います。これは「ものを造る」という仕事に携わる者が持つ、共通の矜持と言えるかもしれません。常石造船100年の歴史は、営業・設計・建造など各専門分野の誇りのぶつかり合いの中で理想を追求した、「ものづくりの歴史」と言ってもいいのではないのでしょうか。



「富嶽三十六景」の「遠江山中」（Wikipediaより）

着々と積み重ねた鉄鋼船建造技術

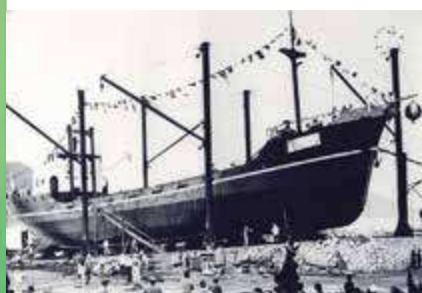
神原 誠之

常石造船100年の歴史の大きなエポックとして、「鉄鋼船の建造」があったことはご存じだと思います。500トン未満の二号船（美小丸）の建造によって、復興から成長へ踏み

出す戦後社会とともに、常石造船も新しい時代へ乗り出したのです。この話をすると、唐突に鉄鋼船の建造に成功したと勘違いされると思いますが、そんな簡単なものではありません。終戦から木造船を建造しながらも、中古の鉄鋼船を買い入れては自ら修理・修繕、さらには改造を施すなどして着々と鉄鋼船の構造や建造技術

を蓄積して、十数年の歳月をかけてついに鉄鋼船を建造するに至ったのです。そして、それを成し遂げたのは私の祖父であり叔父であると同時に、多くの船大工の方々だったことも忘れてはなりません。長年カナヅチとクギ、カンナとノコギリを使い慣れた手に、バナーとビバットを持ち替えて、厚さ50mmもの鉄板と戦った船大工（鉄鋼船で

は造船技術者）の努力と、彼らを叱咤激励しながら鉄鋼船建造という新しいプロジェクトに挑戦し、それを成し遂げた叔父たちの努力を語る人は、もう残り少なくなつてしまいました。だからこそ、私たち神原家に関係する人々はそのことを忘れずに、「新しい何か」に挑戦し続けなければならないのだと思います。



美小丸進水式（昭和33年）

カナダでの サマープログラム



神原 璃穂さん

三回目のサマープログラムはカナダを選びました。パンフレットに載っていた学校の写真を見て「いいな」と思ったからです。「ISPY」というプログラムに参加したのですが、アジア人の割合が多いことに驚きました。事前に、エディクムの方や両親から何度も言われていたが、そこまで多くは無いただろう、多くて20%くらいだろう、と思っていましたが、約70%ぐらいはアジア人でした。

たくさんの方々がカナダで出来ました。韓国の子には日本語を教えたり、オマーンから来た子と一緒に日向ぼっこをしたり、日本人・中国人とサッカーをしたりして、昼休みを楽しみました。夕方からのアクティビティもとても楽しかったです。ドッジボールにサッカー、映画：他にも週1回、校外に出てトランポリン場やドラゴンボート場、映画館に行ったりしました。朝からのスケジュールがきつちりと決まっていたので、洗濯やお風呂がカナダに行く前に思っていたようには出来なかったです。洗濯機はいつも奪い合いました。シャワールームは各部屋についていましたが、時間をつくるのが難しかったです。

カナダに着いた次の日に本を買いに行き、その本を読むことが私のクラスの課題でした。私は「HARRY POTTER and the Philosopher's Stone」を買いました。3週間では全部は読み切れず、日本に帰ってから日本語版を読もうと思いましたがまだ読めていません。後は音楽の授業が面白かったです。長く短かった三週間で、英語だけではなく、他にもたくさんの方の事を学ぶことができました。またいつか行きたいと思います。

3回も海外に行かせていただき、本当にありがとうございました。



楽しかったサマースクール inカナダ・スイス

カヌーが
楽しかった



イサラウタクン 彬宏くん

ぼくは、去年カナダに行かせてもらいました。クラスでBOSSE SCHOONに選ばれました。選ばれた時はとてもうれしかったです。

土日にキャンプ旅行に行きました。キャンプ場はとても景色がよくて、カヌーというアクティビティをしました。カヌーは難しかったけど、楽しかったです。いい経験になりました。

ありがとう
ございました。

レイクフィールド
での思い出



神原 龍丞くん



僕は、カナダの大都市トロントのレイクフィールドに行ってきました。レイクフィールドは名前のとおりで湖があり、水辺のスポーツができます。ウィンドサーフィンやスタンダップパドルボートなどできました。

レイクフィールドでは、午前中ずっと授業で午後からはアクティビティでした。僕は午前中に英語の授業を受けていました。アクティビティは、初めはバスケットボールとサッカーでした。水辺のスポーツはすべてほかの人に取られていました。

一週間に回っているところに行ける日がありました。ナイアガラの水や遊園地やショッピングモールに行きました。僕は遊園地がいちばん楽しかったです。おかげでジェットコースターが怖くなりました。日本のものより怖かった。日本のジェットコースターがかわいく見えます。遊びだけでなく、ナイアガラの水もすごかったです。滝の近くまで行って大迫力でした。

このようにすごく楽しかったです。ただご飯はおいしくなかったです。けれどもレイクフィールドでたくさん思い出をつくることができました。

TASSISの
思い出



神原 伶丞くん



ぼくはTASSISに行きたい。いろいろな事を体験してきました。例えば、初めてウィンドサーフィンをしてその難しさがわかり、パソコンでは出来ない作業で遅れてしまったり、ギターではコツをつかめず弾けなかったりしました。それでも、友達や先生がやさしく教えてくれたおかげでコツがつかめてできるようになりました。

授業では、ミスター・ティム先生が、出した課題がうまくできた時にはよくにグミをくれました。そのグミの味は格別でした。ぼくなりに英語の勉強を頑張っていたつもりですが、周りの人とうまくコミュニケーションが取れませんでした。

さて授業のあとは食事です。いつもバイキング形式で食べていました。思っていたよりはおいしかったです。特に5日目に出たバスタがすごくおいしかったです。それにしてもびっくりしたのは、他国の人の食べ方です。サラダにサラダ油を入れて塩をふり炭酸水を入れて食べていたのです。ぼくも試してみましたが意外においしかったです。

ぼくはTASSISに行ってもものすごく楽しかったです。「明日、帰ります。」と言われた時、帰れる喜びとTASSISとお別れする悲しさがこみあがってきました。「また参加してみんなと会いたいな。」と思いながら帰りました。日本に帰国してまず食べたうどんはすごくおいしかったです。

NEEDでもサマースクールを開催

株式会社次世代教育環境開発
(NEED、末松弥奈子社長)では、
2017年夏に
小学生を対象とした
サマースクールを、
神石高原で
開催しました。



48人が参加し、英語、スポーツ、グループワークなどに取り組みました。英会話はネイティブスピーカーの先生による授業を受けました。スポーツアクティビティでは、元オリンピックの3選手、秋本真吾さんにフットサル、大菅小百合さんにサイクリング、中村克さんに水泳の指導をしていただきました。グループワークでは、3チームに分かれてテーマを決め、保護者の前で英語で発表しました。夜には花火、天体観測、映画鑑賞、キャンプファイヤーなどのイベントも楽しみました。

サマースクールに行って！



神原 彩花さん

わたしがサマースクールに行って何をしたらかと言うと、えい語や体育をしました。プールもありました。そのプールでは、おにごっこや、きょうそうをしました。ご飯を食べるときは、テーブルマナーを教えてもらいながら食べたこともありました。とてもうれしかったことは、話あいてや友達がたくさんできたことです。ツグム君が私と同じ白グループにいてうれしかったです。

一番楽しかった時間はえい語です。毎回、えい語の時間がくるたびにテーマがかわっていき、お話ししたり、絵をかくたり、問題をといたりしました。むずかしいものもありましたが、いろんなことにチャレンジしていくたびに、どんどん楽しくなってきました。さいしょは「むずかしいな」と声に出してやることもありましたが、仲よくなった友達といっしょにするダンスはとても楽しかったです。

4年生になっても、また行きたいなと思っています。

広島で外国人に道案内したい



藤巻 真優さん

夏休みに神石高原のサマースクールへ参加しました。午前中はグループに分かれて英語の授業を受けました。「アセント」「コップ」「フライパン」などの単語を英語で書いたり、工作で釣りざおを作ったりゲームをしたりしました。英語の先生は、分からない言葉があったらジェスチャーで教えてくれたり、たくさんほめてくれました。

午後からは、水泳・サッカー・陸上などの活動の時間でした。一番楽しかったのは水泳です。水泳の選手だった先生と、広いプールで追いかけてこをしたり、泳いだりしてとても楽しかったです。ボランティアのお兄さん、お姉さんとても優しく食事と一緒に食べてくれたり、活動前に持ち物の確認や体の心配をしてくれました。

サマースクールに参加したことで、外国の人と話せてうれしかったです。これからは、もっと英語を勉強して広島に来た外国人の人が迷っていたら道案内やおすすめの場所など教えてあげたいです。

国内での開催に親子とも安心

藤巻 登喜子さん(真優さん母)

神石高原でサマースクールがあると知り、娘にプログラムを説明したところ「飛行機に乗らないなら行く」との返事でした。どうやら飛行機に乗ったことがないので、海外でのサマースクールは不安だったようです。親としても国内でのサマースクールなら、時差や食事、健康管理などの不安もなかったため、安心して参加させていただきました。

まだ英語を習い始めたばかりのレベルで大丈夫かなと心配もありましたが、毎日楽しく過ごせたようです。体を動かすのが大好きな娘にとっては、勉強だけではなく午後からの活動も嬉しい時間だったようです。この経験を忘れず、英語を継続して学んでほしいと思います。



お問い合わせ：常石グループ 秘書 竹縄さん

084-987-4520 / 090-6842-4086

Mail : masayo.takenawa@tsuneishi.com



もっとえいごをはなしたい



神原 すみれさん

わたしは、はじめてサマースクールにさんかしました。ともだちがたくさんできました。トランポリンをしたり、みんなでスポーツをしたり、えいごのおべんきょうをしました。

「ばんたのしかったことは、スポーツのじゅぎょうで、はしりかたをおしえてもらってはやくはしれるようになったことです。えいごのおべんきょうでは、たくさんえいごをはなせるようになりました。

今年も、サマースクールにさんかして、もっとえいごをはなせるようになりたいです。

次の100年に 向けて

「おかげさま」の 精神で、 仲良く、そして 誠実に

ファミリー評議会 議長

神原 勝成

Katsuhige Kanbara



先祖から引き継ぎ、次代につなぐ

常石造船が100周年を迎えました。ここに至るまでには、数多くの不景気を経験し、また何回つぶれてもおかしくないくらい、数多くの事業の失敗もしてきました。ですから、100周年を迎えることができたのは、ある意味、奇跡だと私は思います。造船や海運だけでなく、さまざまな事業にチャレンジしてきたこと、それらの事業の浮き沈みを考えれば、よくぞ100年続いた、そのように思うわけです。

会社も大きくなり、以前に比べて財務内容も良くなり、私たちの会社がしっかりと存在しているからこそ、ファミリーの絆も保たれているのです。常石造船が100周年を迎え、私たちがこうして暮らしているのは、

先々代、そして先代の方々のご苦労のおかげです。私たち第4世代としては、ある時は攻め、ある時は守り、しっかりとした経営をしていかなければなりません。さもないければ、どこかのタイミングで会社がつぶれ、家族も散り散りになってしまいます。新たな年を迎えるに当たって、そのようなことを私は強く思います。

「出会い」と「ご縁」を大切に

100年続いた要因を一言で言う、「出会い」「ご縁」によるものだと感じます。今までのご縁も含めて、今の会社や事業を次の世代にどのようにバトンタッチしていくか、これが大きなテーマです。目先の事業もさることながら、私たちの子どもたち、さらにその先の神原ファミリーに何を残せるか、これが重要なことです。そのためにも、外の方のご縁を大切にしていきたいです。建長寺の管長が書いてくださった「おかげさま」の家訓、まさにその精神が大事だと思うのです。日々の行動について言えば、大事なものは誠実です。仕事についても、ご縁に対しても、すべてに対して誠実であることです。誠実に向き合うことで、結果的に仕事につながり、人とのご縁にもつながるのです。そして、誠実さとともに大事なものは「仲良くする」ということです。例えば、私たち第4世代間の兄弟の仲が悪くなれば、会社にも大きく影響することになります。兄弟が仲良くすることが、我々ファミリービジネスの絶対条件でもあるのです。

神原ファミリーでは、祖父の代から家訓の中に「兄弟仲良く」というものがあります。

しかし、仲良くするということは、簡単なようで実は大変難しいことです。海外に住んでいる人もいますし、ファミリーの人数も多くなっています。そのような中で、仲良くするというのは簡単なことではありません。とりわけ、事業やファミリーにいろいろな問題が起きた時に、その仲の良さが問われます。

仲良くすることで 神原ファミリー全体が安定する

仲良くするには、我慢と苦勞が必要です。人間は楽な方に流れますし、自分勝手な生き物です。我々には家庭があり、仕事があり、ファミリービジネスをしている仲間がいます。いつも会社の業績が良く、何も問題がない、そんな状態はそうそうありません。いろいろな場面で悩み、問題があるものです。そんな時、ファミリーですぐに相談できる間柄でいるためには、普段から仲良くしていなければなりません。日頃から上手に付き合い、お互いのことを苦勞も含めて理解することが必要です。先ほどの「おかげさま」の精神に通ずるわけです。

仕事も安定して家庭も安定すれば、皆が他人を思いやり我慢ができます。私個人の反省でもありますが、会社が倒産しそうになったり家族仲が悪くなれば、自分の「我」が出てきます。ですから、仲良くすることで仕事を安定させることが、仲の良い関係が続けることの秘訣ともなるのです。

常石造船100周年を迎え、神原ファミリーが仲良く、そしてより一層協力し合い、さらに次の100年を迎えられるように祈念いたします。

ファミリー総会2018を下記の通り予定しています。

開催日：2018年3月31日(土)

開催場所：神勝寺

開催時間：10:30～

Hiroshima
Fukuyama
Shinshoji